

＜新木場＞気になるスポット 「新日本ヘリコプター株式会社」を訪ねて

月報委員会
担当役員 本西宏行

新木場と若洲を結ぶ橋の手前に、東京ヘリポートが有るのはご存じかと思います。昨年は、その東京都東京ヘリポート自体を取材させて頂きました。

また、先月号では組合員のヘリコプター搭乗記が掲載されました。

ただ聞くとところによれば規制も厳しく、なかなか取材対象としては難しそう…

それでも、もっとヘリコプターや事業の事を知りたい！

近くに居ても知らないことが、新木場にはまだまだ沢山あります。

そんな、気になるスポットを今回も訪ねて来ました。

取材に際して…

木材会館を見学して頂いたご縁で、東京ヘリポートの新日本ヘリコプター(株)様と接点が出来ました。さっそく取材を申し込ませて頂いたところ、気持ち良く今回取材させて頂ける運びとなりました。取材当日は、大嶋社長・廣瀬東京基地長・奥本運航部長・坂井整備部長・柳下総務グループマネージャーに貴重なお時間を頂き、取材に対応して頂きました。

電力会社の自前ヘリコプター部門

大嶋社長から新日本ヘリコプター(株)の会社概要をお聞きしました。

ヘリコプター事業には、報道取材・遊覧飛行・ドクターヘリ等の様々な形態が有る中、新日本ヘリコプターは、東京電力と中部電力の電力インフラを中心とした事業を展開されているそうです。

映像資料を拝見しながら、送電線の保守点検・架線・資材輸送・鉄塔撤去と幅広い範囲でヘリコプターを活用しているとの説明を受けました。



会議室での会社説明



映像資料での事業紹介



運航オペレーションルーム



運航方法の説明

新木場拠点の役割

まずは最初に運航のオペレーションルームに案内され、奥本運航部長より説明を受けました。

大型ディスプレイには全機体の運航状況&気象状況が表示され、オペレーターの方々が常に状況を把握され、安全への意識の高さが伺い知れます。

続いて、格納庫(ハンガー)に案内されちょうど台風10号の影響調査に、多くの機体が出航していましたが待機中の1機を見学させて頂きました。

図らずも操縦席に乗せて頂き、奥本運航部長から操縦方法の説明をお聞きしヘリコプターの操縦の難しさを、ご教授頂きました。

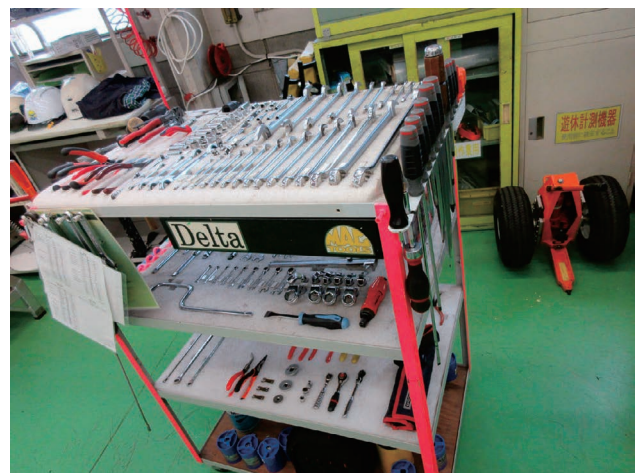
自らも機長として18名のパイロットを束ねられています。パイロットの殆どが自衛隊出身者だそうですが、出身ソースに関わらず十分な訓練を実施し安全運航を目指しているとのことでした。



格納庫内のヘリコプター



とても綺麗な整備ブース



整理整頓された工具類

最後に、坂井整備部長に整備ブースを案内して頂きました。

綺麗に整頓された工具類、ゴミ一つない作業エリアを拝見して、無事故への意識の高さを思い知らされます。

エンジンやミッション等の重整備まで、殆どを自前で整備できるという技量の高さに感服しました。

所有する13機の稼働率も8割以上と高い稼働率を保たれています。

全ての部門が協力し合って我々の日々の生活に欠かせない電力インフラを守って頂いており、企業理念へのプライドを感じさせられました。

将来への取組み

少子高齢化の進む日本の社会構造の中において、航空業界もパイロットや整備士の人材確保や育成には苦勞されているご様子です。

またヘリコプターは単発エンジンの小型機で数億円、双発エンジンの中型・大型機となると数十億円と高額となる機材の代替も、大きな課題だそうです。

今後は、業務内容によっては、ドローンとの棲み分けも必要になって来そうな時代ですが、有人飛行



明日に向かって…



ロゴマークは「コウノトリ」



テイクオフ…



機長は深谷月報委員長？

でなければ出来ないことや、航続距離や輸送可能な資材重量など柔軟に対応できるヘリコプター事業の有用性は、ますますクローズアップされて行くものと考えます。

新木場の皆さまへ

大嶋社長は、「地域の皆さまとは、なかなか仕事上の接点はありませんが、色々な形で地域の方々と交流が持てれば…」と仰っていました。

最後に、筆者も何度かヘリコプターに搭乗したことがあります。機会があれば、ぜひ一度は搭乗することをお勧めします。



左から、奥本運航部長・梶本委員・筆者本西・坂井整備部長・大嶋社長・深谷委員長・渡辺副委員長



伊勢志摩・英虞湾上空



ロビンソン R44 Raven II